

作品一覧

2025-05-29 『死者の書』 折口信夫

何でも読もう会

書物名	『死者の書』	開催日	5月29日	出席者	5名
作者	折口信夫				
<p>東大寺大仏開眼（752年）の奈良を舞台に、不本意な死を遂げた後、50年の時を経て、墓所からよみがえった滋賀津彦（大津皇子がモデル）と、祖先の霊に仕える斎姫（いつきひめ）として育てられていた藤原南家郎女（いらつめ）が神秘的な出会いをし、阿弥陀浄土へ昇華していく物語。</p> <p>折口哲学が背景にあるためか、難解な内容で、異なる時間、空間を重層させている。日本古代文化である日迎え、日送り、そして阿弥陀浄土と、奈良時代に仏教伝来による新しい文化との交差する点も見逃せない。</p> <p>『古事記』『日本書紀』『万葉集』さらには『法華経』『奈良時代の動向』の知識も要求されるようで、なかなか重い。</p> <p>ただ、時間の流れに沿って第十章、第六章から読みだすと、少しは理解しやすい。</p> <p>オノマトベが物語の表現として巧みの使われているのにも注目。</p> <ul style="list-style-type: none">・「した した した」（水滴の流れる音）・「こう こう こう」（助けを求める声）・「つた つた つた」（夜ごとに寝所を訪れる様）・「ほほき ほほきい ほほほきい」（法華経のようだ） <p>ぜひ、一読を！</p>					